

ARTA
AUTOBACS RACING TEAM AGURI

**DIGITAL
2014**

RD.8 TWINRING MOTEGI



ARTA
AUTOBACS RACING TEAM AGURI

Project

vervis

AUTOBACS  **AUTOBACS**  **AUT**



CLICK TO PLAY



ARTA DIGITAL CHANNEL

光明を見出すために.....



ARTA 2014 RD.8 TWINRING MOTEGI

「光明を見出すために……」

気付けば茂木の山々は紅葉に色づき、ランオフエリアの芝生は緑が色褪せている。

季節は秋、シーズンはもう閉幕の時を迎えようとしている。

空は晴渡っていても、11月も半ばとなった茂木の気温は15～6度ほどにしかない。

パドックを吹き抜ける風は冷たく、ARTAの面々も漆黒のダウンジャケットを身に纏っている。

サーキットの中は混戦を極める最終戦でのチャンピオン争いに注目が集まっているが、残念ながらARTAの2台はその蚊帳の外にいる。

しかし、シーズンを経る中で苦しみながらも少しずつ上昇気流を感じつつあるARTAは、ウェイトハンディが取り外されて純粋な戦いができるこのツインリンクもてぎでの週末に結果を出したい。



しかしこの寒さが大敵となった。

タイヤが上手く機能させられず、路面に落ちたタイヤカスが表面に付着してグリップが低下してしまう。

今年幾度となく苦しめられてきたピックアップと呼ばれる症状が、今まで以上に酷く出てしまったのだ。

GT500クラスを戦う8号車ARTA NSX CONCEPT-GTは予選12位、GT300クラスの55号車ARTA CR-Z GTも予選6位と不本意なグリッドからのスタートを強いられることになってしまった。

「コースケさぁ、クルマは乗りにくい？」 鈴木亜久里監督がコクピットの松浦孝亮に聞く。

彼らは決勝直前のウォームアップ走行でタイヤの内圧を通常よりも高く調整し、ピックアップ対策をトライしていたのだ。

「乗りにくいことはないです。リアのトラクションが薄いというかグリップしない感じがするけど、ピックアップするよりは全然マシ」



苦しい中でもなんとか光明を見出そうと、やれるだけの努力をする。それが今のARTAだ。

しかしマシン自体の感触が良いわけではない。

担当エンジニアの佐藤真治が「ラップタイム的にはこれよりも速いペースで連続走行できそう？」と聞くと、松浦は到底無理だと答える。

「キツイね、それはないね（苦笑）。でもピックアップするよりは速いんじゃないかなあ。今タイヤを見てどうですか？」

ピットインしたマシンのタイヤを亜久里監督が自ら覗き込み、

「リアは少し付いてるけど、フロントは格段に少ないね！リアもさっきよりは格段に良いよ」と伝える。

結果、8号車はスタートの直前にグリッド上で内圧だけでなくリアウイングや車高にまで手を加えて決勝に臨むことになった。

「真一、路面温度22度。真一のための路温だからね、頼むよ！」





55号車のコクピットに座る高木真一に向けて、エグゼクティブアドバイザーの土屋圭市も
檄を飛ばす。

そしてセフティーカー先導によるフォーメーションラップから、シーズンエンドを飾るレースの
スタートが切られた。

「ゴメン！ロックしちゃった！」

松浦はスタート直後にタイヤをロックさせて浮上のチャンスをフイにしたが13番手を守って走る。
やはりライバルメーカーのタイヤを履くマシンに比べてブリヂストン勢はコンディションに
タイヤレンジが合わずに苦勞をしている。

「やっぱりグリップが全然ないわ。ピックアップしている感じはないけど、メッチャ滑る！」

「もうヤバい、4コーナーも全開で行けない」

「ピックアップはしていないけど、超ドアンダーだよ」

それでもブリヂストン勢の中で比べれば松浦のペースは決して悪くはない。



亜久里監督が佐藤エンジニアと相談して

「真ちゃん、そんなにタイムは悪くないよね？」

「そうですね、他チームとの差はそんなにないです。ラップタイム的にはコースケが特別遅いわけじゃないです」

ラップタイムペースが悪くないことを伝えて松浦にスティントを引っ張るよう持ちかけるが、松浦はアンダーステアに苦しんでいてそれどころではない様子だった。

「（周回遅れの）GT300の大群が見えたら入ろう。用意しといて、いつ入るか分からないから！」
一方、55号車のステアリングを握る高木も我慢の走りを強いられていた。

前を走る同じCR-ZGTの0号車が、ペースを上げられず苦しんでいる。

しかし同じマシンであるだけにストレートの速さは変わらず、なかなか抜くことができない。

「もうちょっと速く走ってほしい.....ピックアップしてるんだと思うけど。速く行ってくれよ、後ろに追い付かれちゃうよ！」



「無理無理！これは抜くのは厳しいよ。ピットストップを早めた方が良いんじゃない？
クルマは調子良いのに……」

それはFIA-GT3規定のマシンに対しても言えることで、どれだけCR-ZGTの単独のラップタイムが速くとも、コーナーは遅くとも最高速だけは速い彼らを抜くことは難しかった。

それに苦しみ続けた1年だった。

ピットストップが可能なミニマムの周回数でピットに飛び込み、小林崇志にドライバーチェンジをする。

タイヤに苦しめられただけに、4輪全てを交換してコースへと戻る。

その直後にピットインした0号車は、本来ならばここで逆転ができたはずだったが、
彼らはリア2輪だけを交換するタイム短縮によってポジションを守ったままコースへと
復帰してきた。エンジニアの一瀬俊浩が伝える。

「0号車はさっきピットインしてリアだけ交換でウチの5秒前に戻ったからね」

「小林、ずっとクリアだから。プッシュして行けよ！」土屋も檄を飛ばす。



8号車の松浦も55号車の作業を待ってピットに飛び込んだ。

ヴィタントニオ・リウッツィに代わったが、ペースはどうにもならない。

サインボードに掲げられる前との差は少しずつ大きくなっていき、バトルをするチャンスも巡ってることなく12位のままレースは終わってしまった。

「タイヤにグレイニングが起きてグリップが落ちてしまった。

マシン姿勢が安定せず、運転するのが難しかったんだ」

高木からステアリングを引き継いだ小林は、0号車との差を詰めていった。

「徐々に追い付いてるぞ。良いぞ小林！」そしてついにオーバーテイクを果たした。

「オッケー、ナイス！」「前を走ってるのは同一周回？」

「そう、この集団では小林が一番速いぞ」

小林の成長は今年もさらに目を見張るものがあった。かつてのようなひ弱さは姿を消し、

グイグイとチームを引っ張っていく。その存在感は確実に大きくなっていた。

そして、最終戦のチェッカーフラッグが振られた。

ARTA Pro

AUTOBACS RACING TEAM AGURI





「お疲れ様でした、チェッカーを受けました。ポジション12」

その結果に小林は満足していない様子だった。しかしこれが今のマシンの限界。

土屋も小林にねぎらいの言葉をかけた。

「1年間ありがとうございました。最後にポイントが獲れなかったのは残念だけど……」

「ポジションはどうしても良いよ。与えられた状況の中でお前はよく頑張ったよ、お疲れ！」

亜久里監督も「マシンの性能は充分引き出せていると思うので、今のレギュレーションではこれが精一杯かもしれないね」と悔しそうな表情を見せる。

上昇気流を感じながらも、それを結果に繋げられなかった2014年。

結局最後の最後までそんなシーズンになってしまった。

それでも、亜久里監督もARTAの全メンバーも、絶対に諦めることはないだろう。

最終戦で苦境の中においても光明を見出すためにトライをしたように、全力で戦い続けるだろう。



「なかなか問題点を解決出来なかったね。でも、課題は見えているので、来年に向けてひとつずつ問題点を消化して行って、来年こそは結果に結びつけたいね。手応えは感じているので、出来ると思う。今シーズンはこれで終わりだけど、応援して下さったファンの皆さま、ご支援下さいました企業の皆さまには感謝申し上げます。またドライバー、エンジニア、メカニックも非常に頑張ってくれました。来年は絶対に結果を出します」

こうして長く苦しいシーズンは終わった。
だがその瞬間からまた新たなシーズンに向けての挑戦が始まっている。



RESULT

GT500



ARTA NSX CONCEPT-GT NO.8 ヴィタントニオ・リウッツィ / 松浦 孝亮

公式予選	決勝	TIME DIFF	BEST LAP	ドライバーズランキング
12位	12位	1Lap	1'42.451	16位

GT300



ARTA CR-Z GT NO.55 高木 真一 / 小林 崇志

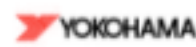
公式予選	決勝	TIME DIFF	BEST LAP	ドライバーズランキング
6位	12位	1Laps	1'51.277	11位



AUTOBACS Motorsports Conference

オートバックス モータースポーツ連絡協議会

【amsc参加企業】



株式会社アネブル	安全自動車株式会社	株式会社イサカ	株式会社ウェッズ	Fデザインオフィス	興工業株式会社	コアーズインターナショナル株式会社
株式会社サンコー	株式会社サンテック	株式会社ジーエス・ユアサバッテリー	株式会社湘南レオテック	株式会社錦織	日星工業株式会社	株式会社バンザイ
株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン	ブリッド株式会社	株式会社ホットスタッフコーポレーション	三菱重工業株式会社	株式会社ユビテル	株式会社ワップ	

2014年2月28日現在会員企業

amsc (AUTOBACS Motorsports Conference) とは株式会社オートバックスセブンを中心に、自動車用品関連企業約100社が参加する任意団体であり、モータースポーツを核として「世界中のドライバーを車好きに変える」為に、自動車関連マーケット全体の活性化を目的とした団体です。将来的には、日本のモータースポーツ文化の発展と新たなカーライフ文化の創造に貢献していきたいと考えております。

Thank You for Supporting

Calm Flower

case play

ARTA GALS



Thank You for Supporting
Samantha Thavasa Japan Limited





株式会社オートバックスセブン



ARTA Project



ARTA DIGITAL
Youtubeチャンネル

To be continued next season.....

ZERO
BORDER
Team ZEROBORDER

Copyright c2014 ZEROBORDER INC. All rights reserved. No reproduction or republication

Director and Photographer : Masakazu MIYATA
Text : Mineoki YONEYA
Design and Web Creator : Akira YOSHIDA

Special Thanks : AUTOBACS SEVEN CO.,LTD